

令和4年度第1回高知県おもてなし県民会議 議事要旨

日時：令和4年9月6日（火）15:00～16:30

場所：高知県立県民文化ホール 4階 第6多目的室

- 1 開会の挨拶
山脇観光振興部長
- 2 委員の紹介
- 3 高知家おもてなしキャンペーンの実施について
- 4 連続テレビ小説を生かした観光振興とおもてなしについて
- 5 おもてなし機運を高める取り組みについて（意見交換）

【植田会長】

連続テレビ小説を生かした県民参加によるおもてなしや地域活性化の取り組みについて、各地域や各団体で実施していたり今後計画されている活動の紹介をお願いしたい。

【宮尾委員】

佐川町では、地域の方が家の植木鉢や庭、お店の軒先、地域の花壇など、楽しんで育てている植物がある場所に「まるごと植物園」というプレートを立てており、町内で100カ所以上あると聞いている。牧野の博士の生誕地やふるさととしてふさわしいまちづくりとして町全体をまるごと植物園に見立てている取り組みだが、町を歩いたりお店に立ち寄った際、目にする場所に植物があり、花によるおもてなしというのが心が和む。

また、佐川町観光協会の方で、町内の小中学生向けに牧野博士をはじめ佐川の歴史や観光についての出張授業を実施している。その授業を受けた児童や生徒たちは牧野博士ゆかりの植物を種から育て、牧野公園や地域の花壇に植栽をして、佐川町の庭づくりに貢献している。

佐川高校の生徒は、総合的な学習の時間で地域学習や地域の仕事体験やボランティア活動を実施している。例えば、牧野博士のゆかりの地である上町地区のまち歩きのボランティアガイドを行うほか、JRの駅では観光列車へのおもてなしでお手ふりなど。SNSの発信にも力を入れており、これらの活動について自ら情報発信を行って近隣の方にPRしている。併せて、部活動（地域マネジメント部）の中で学校の授業とは別に地域との連携づくりを目的としたイベントの出店や地域活動のオープニングイベントのPRを実施するなど、地域活性化につながる取り組みを行っている。

当協議会では JR 西佐川駅内の立地を生かし、週末には観光列車のおもてなしを実施している。(SNS 発信をして近隣の方と一緒にすることもある)

【植田会長】

高知城の下でのお茶出しを毎年やっていると思うが、以前に竹林寺の海老塚さんにご協力いただいて、坂を上りきったところで温かいお茶をさしあげたらものすごく喜んでいただいた。そういった本当にお金もあまりかからない何気ないお茶をさしあげながら話す、そういうおもてなしは一番心に残る。高知ってすごいね、となる。何かをもらったからおもてなしじゃなくて「心のおもてなし」がすごくいいなと私は思う。

【葛目委員】

県下全域の観光ガイドの牧野に対する知識を高める目的で研修会や講演会を予定している。その中で、計画するのに一番困っていたのが駐車場。今日新聞見てびっくり。シャトルバスが9日から毎日運行すると書いており、それなら最初から言っておいてくれれば…。最初からそのような方針を出して、もっと観光客に対してアピールすると思う。一度試乗してみたが、バスの運転手の教育が今一つという感じ。例えば、正面入口に到着しても何も言わない。ただ車両を停めるだけ。一番最初に観光の代弁をするところなので、運転手には「ここが正面入口です。お入りください」など、最低限それぐらいの教育をした方が良い。それが無理なら女性の声で高知の案内を行い、到着したら「ここから入ったら良いですよ」など、女性の視点などで考えられたら良いと感じた。バスの運転手の無愛想な顔を見ると、観光の熱が一気に下がるのではないかと心配している。そのあたりご配慮いただけたら。

観光ガイド全体の教育は、全力を挙げてさまざまな知識を観光教育に浸透させていくように考えている。

【楠瀬委員】

タクシー関係は期待している。放送が始まると同等の影響があるのではないかと考えている。ただ、植物がこの先、国民全体でどれだけ浸透していくか心配な点がある。そのため、ドラマがどう進展するかという問題もあるし、全体的な牧野先生の人柄等に素晴らしいドラマが生まれてくれば、非常に良い結果が出てくると思う。植物を前面に出す場合に、国民全体で植物に興味のある人がどれだけいるかという点が心配であり、そういった点をどうカバーするのがこういった会議の大きな責任ではないかと考えている。

【海老塚氏】

竹林寺は来年ちょうど開創1,300年を迎えるため、らんまんの放映期間4月～9月までと秋の10月と11月に開創1,300年記念としてイベント(事業)を検討中。秋の方は、テレビ放映が終わってから行ってみようという方が絶対いると思われるため、一年間は五台山

の人出はかなりのものになるのでは。

やはり一番気になるのは駐車場で、県の方と協議を進めている。植物園は現在工事中。シャトルバスの方へ誘導できれば、という話を自然共生課ともしているが、シャトルバスに乗ったから良かったというものがないと、往復40分かけて乗らないのでは。何か一つポイントがあればそれをつけてもらいたいと思うのと、お寺としても、仏教をしなさいではなく、1,300年の中に実在している、歴史に触れていただきたい。そういうことで、色々な事業を考えている。牧野植物園もそこに実際あり、五台山には本物がある。作られた偽物ではなくて、来年のらんまんに向けて簡単に仕上げられたものではなくて、本物がそこにある。本物に触れてもらいたい、という思いで今私たちも計画している。県や県民の皆さんと一緒にやって五台山というところを盛り上げていきたい。

【山協観光振興部長】

渋滞対策に関して、今の状況を説明させていただく。臨時駐車場に車を停めることに対するインセンティブについては、以前より海老塚さんと相談しながら検討しているところ。まず一つは、牧野植物園と桂浜の渋滞対策について、バラバラではなく、臨時駐車場に止めてバスに乗ると両方にいけるという仕組みを高知市と一緒にやって9月補正で予算要求している。

もう一つ、臨時駐車場に止めた場合に、何かもらえる、何かの情報が得られる、スタンプが押されるなど、何らかのインセンティブが必要だと考えている。特に放送直後のGWの混乱を起こさないために、推進協議会の事業としては、来年度の多客時にGWの対応を考えている。今日の新聞に載っていたのは、牧野駐車場の狭隘問題をやってるがあまり知られていないので取材してもらって書いてもらったということで、林業部局の方に今日のご意見を伝えて、PRするようにしていく。

また、必ずしも草花を見たいから高知に行く方ばかりではないというのは十分理解している。例えば博覧会やっているから行ってみたい、高知まで行ってないので行ってみたい、らんまんが面白い、神木隆之介のファンだからなど、そういう意味では草花をしっかり磨いていく必要はあるものの、自然体験型の観光地であったり歴史観光であったり高知県受け入れの総力戦ではないかと思っている。高知に来るさまざまな動機があると思うが、そうした方々がどこに行っても高知県らしいおもてなしを受けられるように、先ほど言った佐川、越知、高知市だけでなく県が色々なところで県民あげてのおもてなしをしていく必要があると思っている。県全域をフィールドにしたおもてなしを盛り上げをしていきたいということで、県外ばかりでなく、県内向けにさまざまな媒体を使ってPRや番組などで発信することで県民みんなで盛り上げていくような広報戦略を秋頃に向けて県として打っていきたいと考えている。

【清原委員】

学生達に学びの機会をいただくのはありがたい。立志社中という学生たちのグループがあり、地域の方たちと一緒にまちづくりをしている。そのグループの一つが佐川町尾川地区の集落活動センターに通っていて、住民の皆さんと一緒に花壇を造る活動をやろうとしている。そういう活動を博覧会と関連付けていってはどうか。いままでは意識せずやっていたことが、実は博覧会を盛り上げるための運動の中に入っていたということになる。運動に広がりが出る。

持続可能な取り組みとして提案がある。草花は季節もの。例えば、何月に行った時にあの花はあったけど別の月に行くとなし、といった問題をどうしたら解決できるか。それは「情報」提供だと思う。私が考える一番のおもてなしは「情報」で、細かい情報が簡単に手に入れられるようになる仕組みづくりが「おもてなし」ではないか。そのためには、インスタグラムが効果的だと思うが、全県的なフォトライブラリーみたいなものを作ってまとめ、整理してはどうか。さらに、それを住民参加型にして、きれいな草花や景色の写真を県民参加で提供していく。自分の撮った写真がそこにあればうれしいし、もっといい写真を撮って出そう、という動機付けにもなる。そういう細かい情報は、旅行者としてはありがたい。旅行前からわくわくするし、ここにいつ行こう、と計画する。旅行が終わった後も、写真を投稿しようというような楽しみ方があるのではないかと思う。

【山脇観光振興部長】

先ほど佐川での活動を県内にPRするような話をしたが、どちらかというと、県が広報することではなく、そういった取り組みを紹介してもらって、インタビューを受けてもらって、その取り組みを県内の方に知ってもらって広げていくというのが県内向けの盛り上げるための一つの手法であるとのヒントをいただいたので、そういったことを実践していきたい。

今回草花がテーマで、高知県が苦手な分野というか、見頃であるとかタイムリーな情報は非常に難しい。今回それに挑戦をしているところ。ライブカメラであったり地域の方に入れてもらった見頃を迎えた草花情報を駅前や空港など主要な施設に設置したデジタルサイネージで発信できるよう準備を進めている。これは高知に来てから着地型の情報提供であるため、来る前にどういう状況なのかというのが分かる情報発信の仕組みについて今後検討していきたい。

【植田会長】

私の家は龍馬の生まれたまち記念館の町内で、まち歩きをしている。うちはビルで殺風景なので、花を吊り下げている。なるべく花をきらさないように、と思っている。

【長尾委員】

今、清掃の時に中央公園で後で花の種をくれると話があったが、本当にこれは素晴らしい発想だと思った。花の種だけでいっぱい人が来る。高知の人間は祭り事が好きだと感じてい

る。我々も花の種運動をしている。広大な土台もなく、そういうところも連携しながら、我々の連合会と下部組織もたくさんあるので、今回の牧野先生Tシャツも大量に買い、大分安くしてもらった。役員はほとんど購入した。来年のらんまんについて我々も便乗しながら、色々考えながら地域に花をいっぱいにしたい、若返りたいというような気持ちであるため、この会の意見を聞きながら頑張っていきたい。

【横山副会長】

旅館組合については、牧野先生の植物に関しての食文化みたいなものもあるので、今調理師会と色々相談しているところ。特に、高知の田舎寿司をいかにどう県外に発信していくか、田舎寿司の良さをどれだけ県外の方にアピールできるかということ話し合っており、らんまんに向けて今まで地元の人しか認知度がなかった田舎寿司を全面的に推していこうという動きはしている。

やはり植物を牧野先生の部分で一押しするのであればもちろん五台山もそうだし、高知県って意外と体験ものの観光地があるので、高知県下に四季折々ある花を使って、例えばボランティアさんであったり、押し花を教えるみたいな感じかと。僕ら世代の方って当たり前で作っていたと思う、昔は遊び感覚で。そういったものがだんだんおそらくなってきて、例えば家族連れで押し花をして、そのしおりを持って帰っていただくとか。押し花の仕方とか、意外と簡単にできるんだよって言って、パッと見た目は全然普通のお花に見えても「押し花にしたらこんなに綺麗に可愛くなるんだよ」みたいな、そういった植物に対して興味をもってもらう、みたいなアピールの仕方。またそれを持って帰って、しおりにしても何にしても、使ってもらうことによって「高知で作ったな」と思い出してしていただくとか、そういったことも一つ、植物に関してのアピールの仕方じゃないかと思った。

【安藤委員】

一回り上の先輩から、牧野先生の高中生か中学生の時に一緒に植物採集に行ったと聞いたことがある。その話がすごく面白くて、たまたま高校の植物の先生が牧野先生のお弟子さんというか間接的なお弟子さんで、その方についてくるか、と聞かれてついて行った。牧野博士は植物学者としてすごいが、人物としてもすごいと聞いている。なので、牧野博士の人となり子供たちや学生たちに伝わればうれしいと思う。ただ、高知の人間は飽きっぽいので、自由民権記念館もガラガラで、自由民権記念館の前の館長の山本さんもすごく嘆いていた。だから、そういうのを伝えていくことが大切。単にプロモーションということだけでなく、下地から作っていかないと。大変な作業になると思うが何か方法はないのか、と思う。そういう場が高知市内であれば自分も聞きに行きたいと思っている。

【山脇観光振興部長】

明日 NHK のプロデューサーの方が県庁に来られてどんな内容になるのかも含めて取材し

てもらおうようになっているが、牧野博士の人となり进行全面に出していくために名称も「らんまん」にしたと言われており、草花もそうだが、牧野博士をより知るとい活動は非常に有効かと思う。先日発表された新たなキャストの中で、島崎和歌子さんの役が民権ばあさんということだが、再び高知県の自由民権運動の関係が出てくるのではないかと。ドラマの内容に即したかたちで進めていくのが効果的なやり方だと思うので、可能な範囲でやっていきたい。

【安藤委員】

牧野先生が持っていた地場の植物の種を預かって広めて「チーム牧野」という名前で高知で植物を育てているお百姓さんがいる。潮江菜や高知の古くからの安芸の入河内大根とか、そういったものは牧野博士と関わる食材という捉え方ができる。季節感も出るし、飲食関係でぜひご検討願いたい。

【横山副会長】

牧野先生が愛した野菜ということで、野菜だけで懐石料理やコース料理を作るのはなかなか難しいが、牧野博士が高知に残してくれた野菜などを使ったメニューづくりも調理師会と相談しながら開発している。

【岡崎委員】

牧野植物園の記念館や庭園を設計したのが内藤廣さんという建築業界で有名な方。建物にしても、高知には安藤忠雄先生の建物もあるし、隈研吾先生の建物もあるし、そういった違う視点からの楽しみ方もできるのでは。構造上すごく素晴らしいと聞いたことがあったので、建築に興味ある方にこういうコースもあります、といった選択肢を増やしてあげるのもいいと思った。

また、牧野先生は植物の調査で台湾に行った際、色々な植物の命名をされている。「愛玉子」もその一つだが、台湾では「タピオカ」に負けてないぐらい有名なスイーツ。イメージとしては寒天状のもので、砂糖水にレモンをかけて夏場に食べたりするものだが「ゆず」とコラボできないかと思う。台湾から視察で来られた際、「愛玉子」は牧野先生が命名していることを知らない方が多くて、私もある方から聞いて、こんな近いところで実はつながりがあったんだ、と。高知ならレモンではなく、ゆずで食べると絶対いけるとずっと思っていた。植物の種なので輸出入が難しいと思うが、業務用スーパーで固めたゼリー状になって売られているのを見た。来年の一月に台湾に帰国する予定になっているので、その際を探してみようかと思っている。売っていたら輸入して三谷先生の力をお借りして、商品化できないかなと5年前から思っていた。「らんまん」の放送が決まったタイミングで誰かの力を借りて商品開発をすれば、タピオカ以上にうけると思うし、高知発祥ということになってもいいくらい大ヒットするスイーツになると思うので、ぜひまた三谷先生に力をお借

りしたい。

【岡崎委員】

「愛玉子」の生はない。種になってるもので、実はすごく安い。牧野先生は台湾ともゆかりがあるということもあり、植物園の入ってすぐの丸くなっている場所に牧野先生が命名した台湾の竹を植えてある。これからおそらく秋冬に向けてチャーター便があるようなので、台湾とのつながりがアピールできれば。台湾にも高知ファンが多く、何か紹介するネタがあればと思う。

【三井委員】

昨年11月の終わりに外国人の方を連れて竹林寺さんにお伺いして写経をした。そのコースについてご案内させていただきたい。牧野植物園に行くには、車だけではなく色々なアプローチがあると思う。外国の方を案内する際に、高知駅に集合して電車で文殊通まで行く。文殊通は名前の通り文殊様の入り口ということで、そこから文殊通の遍路道を歩くが、道がわかりにくい。そこを分かりやすくしたらいいと思ったのと、四国羅針盤で外国の方が今すごく遍路に興味がある。四国には本物があると言っていた。それと、お寺が身近にあると言われたのが心に残っている。なので、遍路道を歩いて30分～40分、そして竹林寺に行って写経とか座禅とか瞑想などトータル的な体験をして牧野植物園、その後MY遊バスで桂浜に行く、といったコースはどうかと思う。そうすれば一日中楽しめるし、サステナブルにもつながる。そういったアプローチをご検討いただきたい。

【天野委員】

我々旅行会社としては、高知の素晴らしいコンテンツをどう掛け合わせるかが大切だと思っている。旅行者が来られた際に、点として人を呼び込むのは難しいので、それをきっちり回ってもらうような商品、オプションを作っていく必要があると考えている。

また、県外からの旅行者は限られた時間で来る。無駄な時間であったりあらかじめ時間がかかると分かっていることについては実際そうであってもストレスを感じないが、すんなりいくと思っているのものがいかなかった、そういったストレスを感じずにすむかどうか次につながる。いかにストレスフリーで過ごせるかを考えるが、レンタカーのカーナビについて、高知のものはすごく古い。お客さんが来られて、レンタカーに乗ってカーナビを設定したら、大体道を間違える。結局ぐるぐる回って、運転に慣れている方であれば見ながら修正がきくが、女性グループや牧野に来られる女性の方が迷ってどうしようとなっていることが何件も起きている。おもてなしやサステナブルの観点からもバスを利用してもらうのが一番いいとは思いますが、レンタカーを使われるというお客様も結構いる。経費面で難しいところがあるかもしれないが、それならば「レンタカーのカーナビは最新版はありませんので、皆様の携帯のグーグルマップを使ってください」とアナウンスする方が親切だと思う。

短い時間を有効に使える手立てについて、受入側がきっちりと考えていく必要があると思う。

【笹岡委員】

高知みらい科学館の高橋館長が牧野博士にとっても似ていると個人的に思っている。お会いした時に蝶ネクタイをされていて、「ひっそりキャンペーンしています」とチャームングにおっしゃっていた。「ぜひどんどん発信してください、みらい科学館の宣伝と一緒に」と言っても「そういうの苦手だから」とおっしゃっていたが、ぜひ協力していただけたらと思った。